

- 1.20.1 インラインフィルターを使用する。370, 371, 372, 373, 374, 375 (ⅢA)
- 1.21 カテーテルロック
 - 1.21.1 作り置きしたヘパリン生食によるカテーテルロックは行わない。376, 377, 378, 379, 380 (ⅣA)
- 1.22 輸液・薬剤とその調製法
 - 1.22.1 高カロリー輸液製剤の調製に関する基本的考え方
 - 1.22.1.1 高カロリー輸液製剤への薬剤の混合は、可能な限り薬剤師の管理下で無菌環境下で行う。381, 382, 383 (ⅢA)
 - 1.22.1.2 高カロリー輸液を投与するにあたっては、薬剤の数量および回路の接続数を最少化する。384, 385 (ⅢA)
- 1.23 病棟での薬剤調製
 - 1.23.1 薬剤師は薬液混合法、調製場所の選択・清潔管理に関して指導・助言する。386, 387, 388, 389, 390 (ⅢA)
 - 1.23.2 病棟での混合薬剤数は可能な限り少なくする。391 (ⅢA)
 - 1.23.3 混合場所は専用スペースで行う。392 (ⅢA)
 - 1.23.4 無菌設備を設置する方がよい。393, 394, 395, 396, 397, 398 (ⅢB)
 - 1.23.5 作業面の消毒は消毒用アルコールを使用する方がよい。399 (ⅢB)
 - 1.23.6 紫外線殺菌灯や空気清浄機は使わない方が良い。400 (ⅢB)
 - 1.23.7 薬剤の混合にあたっては、その作業に専念できるように係を決める方が良い。(ⅢB)
 - 1.23.8 混合操作時は専用ガウンを着用し、手洗いの後に非滅菌手袋を着用して作業を行う方が良い。401, 402, 403, 404, 405, 406 (ⅢB)
- 1.24 高カロリー輸液基本薬・輸液剤の選択および使用
 - 1.24.1 基本原則
 - 1.24.1.1 糖電解質液とアミノ酸製剤を混合する場合は、高カロリー輸液用キット製剤を使用する方が良い。(ⅢB)
 - 1.24.1.2 スリーインワンバッグ製剤(アミノ酸、糖質、脂肪が一つのバッグに入っているもの)では細菌が混入すると急速に増殖する。また、フィルターが使用できないため、微量元素製剤と高カロリー輸液用総合ビタミン剤以外は混注しない。(ⅢA)
 - 1.24.1.3 スリーインワンバッグ製剤では完全閉鎖ルートとし、その製剤の輸液ルートからの側注は禁止する。(ⅢA)
 - 1.24.1.4 脂肪乳剤を含んだ製剤は、三方活栓にひび割れを生じさせることがあるので、接続部での液漏れや汚染を監視する。(ⅡA)
 - 1.24.2 高カロリー輸液基本液への薬剤の添加
 - 1.24.2.1 高カロリー輸液にアルブミン製剤を加えない。407 (ⅡA)